

異人休息之圖



文字ハ直豆の市文字ニテカラス

ハツカリス

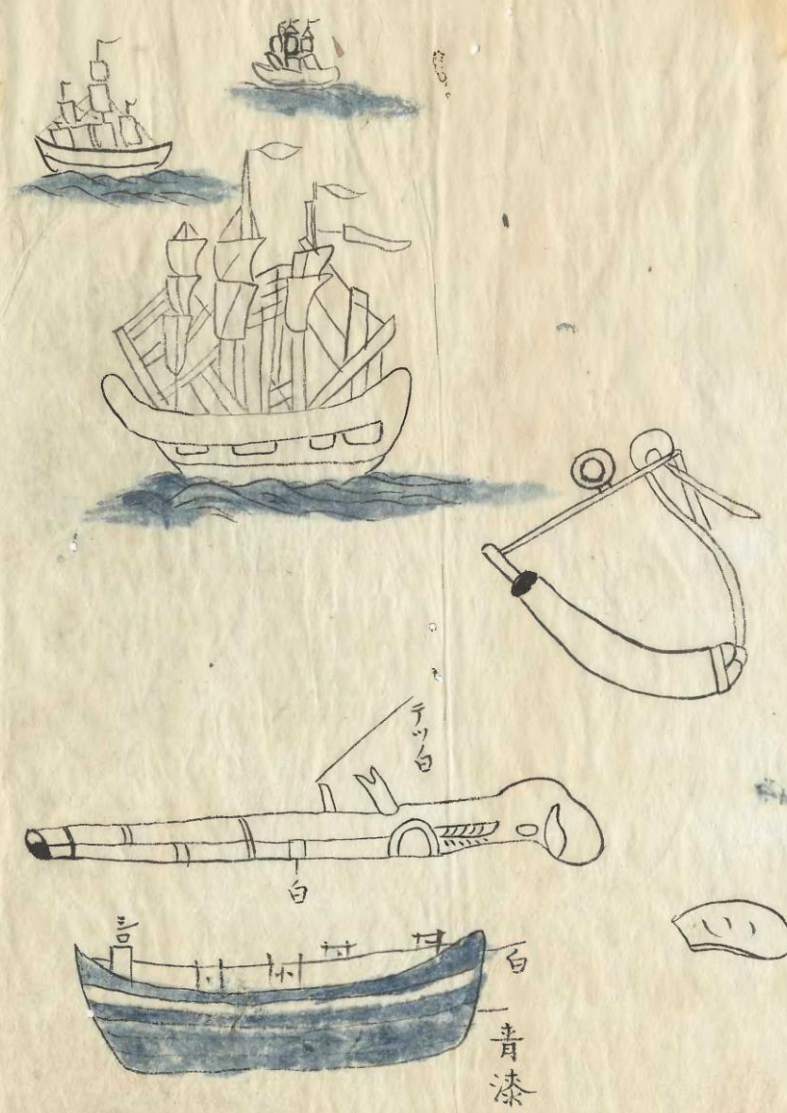
Englische

ウシヤ

Every cloth

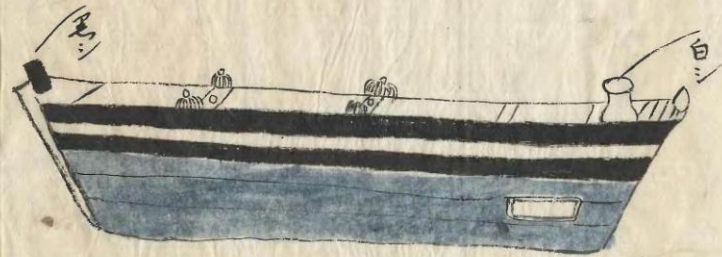






美人名
必ハ
請厄利西
人ナニ人
内人加比丹
又人ハ西里加

ケヒサ
ケニブ
ケノル
ケヘン
シメリ
リヤウヤン
ブラチ
ナヤルホウ
ルケシ
テビス
メトトシ



傳馬紙



申六月廿八日

見

西作友

古山善吉

是日... 西作友

本居一汗... 西作友

乃... 西作友

乃... 西作友

乃... 西作友

日... 西作友

乃... 西作友

乃... 西作友

天文方...

西作友

乃... 西作友

乃... 西作友

乃... 西作友

也

古雄...

乃... 西作友

の御教文一付に葉とる御者一ツ女御也
以下御令旨百七の傳之場也

御教文元ノ格
川久保書下

右為堂之御後人上下之御教文
おあゆむ御教文御教文一付に葉
以下御令旨百七
七

一五次也一付に葉書物

一五次也一付に葉書物
御教文元ノ格
川久保書下
おあゆむ御教文御教文一付に葉
以下御令旨百七
七

一月十日に御教文一付に葉書物

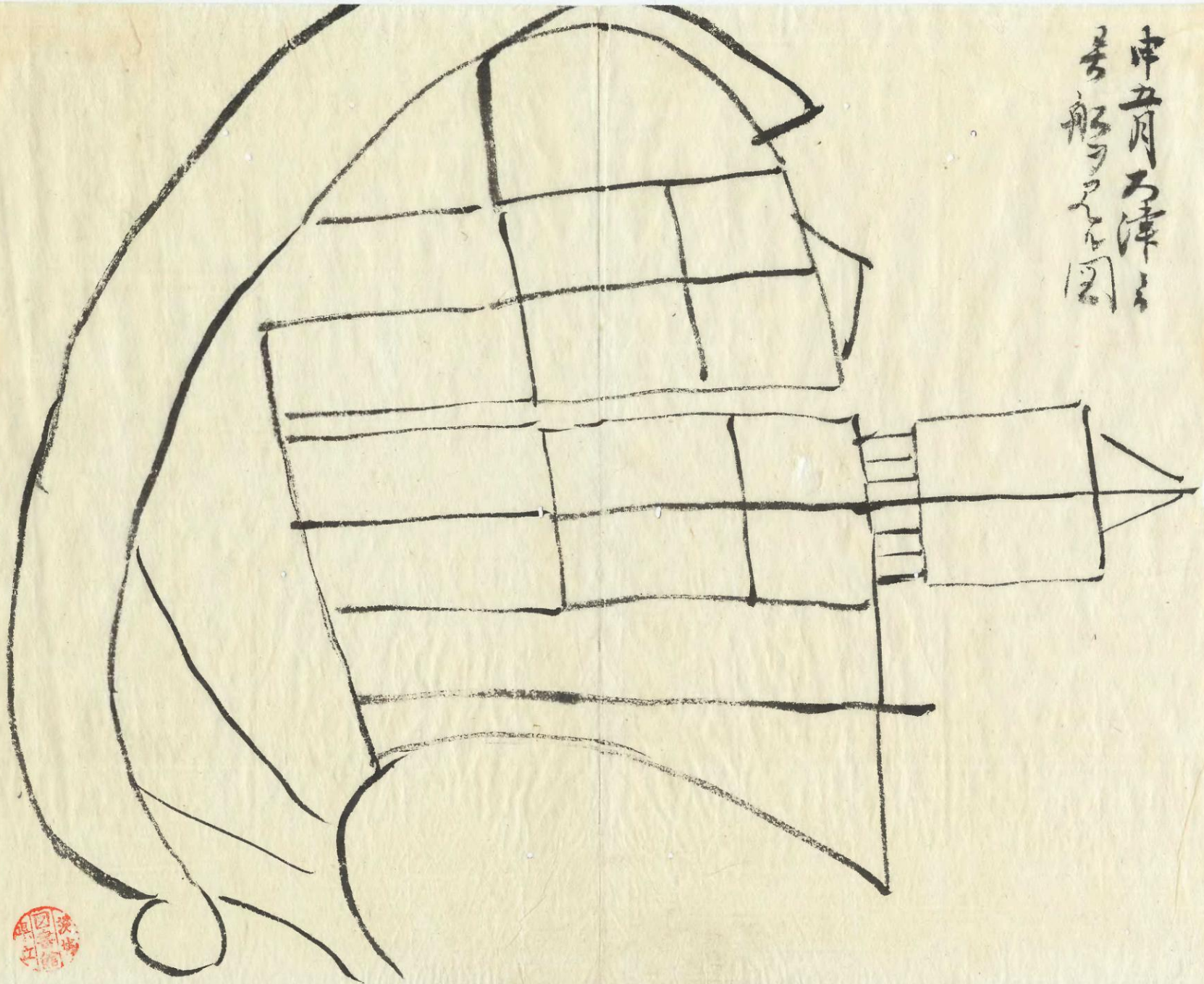
史記五載を御教文一付に葉書物
御教文元ノ格
川久保書下
おあゆむ御教文御教文一付に葉
以下御令旨百七
七

申五月 砥草村
中津江市麻
舟之圖



Red seal impression

申月乃津
舟乃名園



GIBSON SHIP INDI^{AN}

ANN & CAPT^N

SHIP. KEMD.

CAPT^N PT^R

中山候子
有向此
一國之
世也



文政七年甲申五月廿九日夜

一、ふふ、人、教、は、是、の、物、也

〇月、日

(一) 是、為、也、
考、也、也、也、

近、也、也、也、

〇月、日

今、度、恒、也、

如、日、恒、也、

〇月、日

恒、也、也、也、

恒、也、也、也、

子、也、也、也、

子、也、也、也、

〇月、日

〇月、日

〇月、日

日、月、恒、也、恒、也、恒、也、

〇月、日

〇月、日

〇月、日

〇月、日

〇月、日

〇月、日

〇月、日

〇月、日

〇月〇日

〇月〇日
〇月〇日

陸路

〇月〇日

〇月〇日

〇月〇日

〇月〇日

〇月〇日

〇月〇日
〇月〇日

陸路

〇月〇日

〇月〇日

〇月〇日

中山

〇月〇日

陸路

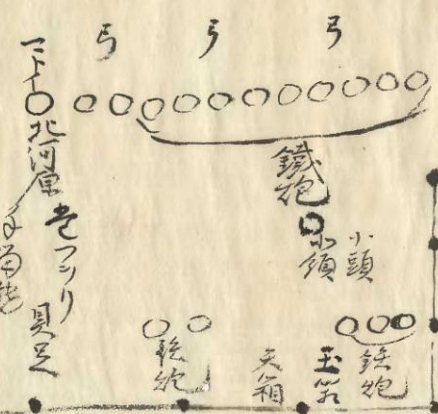
〇月〇日

〇月〇日
〇月〇日

〇月〇日
〇月〇日

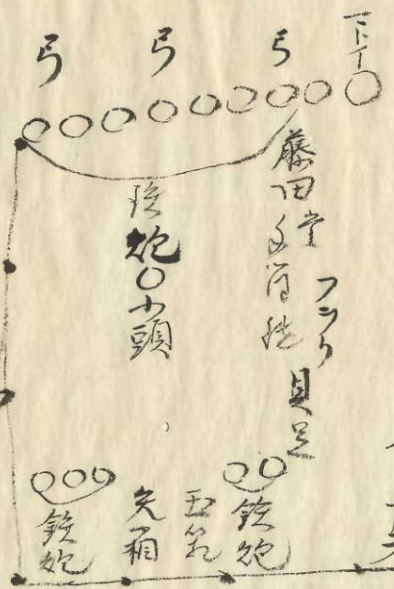
川尻村海船見申候節出張候陳立

馬所二間子



三圖
 前田河野
 後銃
 矢箱
 玉矢
 小頭
 鐵砲
 見立
 見立
 北河原
 後銃
 矢箱
 玉矢
 小頭
 鐵砲

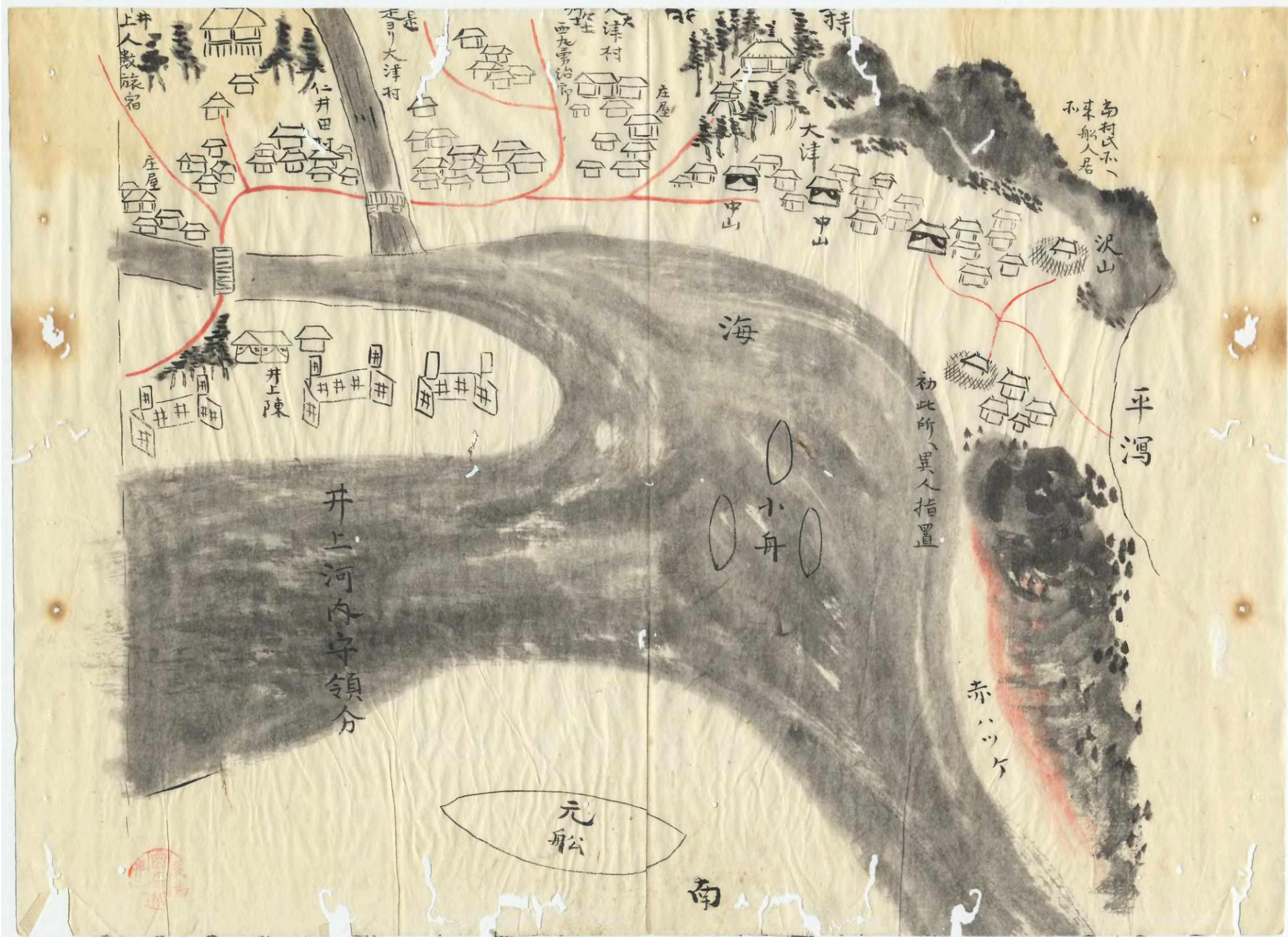
兼子前田小泉栗谷
 二人
 後銃
 矢箱
 玉矢
 小頭
 鐵砲



去八日早朝五里ノ先中ノ船見、し候節、カクメ、

去八日異船四艘見申候、自國申候





巖名
ガシ石



見ヨリ礮原ハ前
ニ有



活厄あゝカ人石

けいさん
ケヒヤン
かん
ケニブ
ワニル
ケヘン
えり
ニメリ
リヤ
リヤ
あ



稲垣兵庫知行所

フ
ち
ち
ル
テ
メ
メ
メ



《 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 》
 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

煙管 バイ
 豆 カナシ
 筆 フライス
 服指 シヤウリ
 首 フクス
 子鏡 トラ
 鼻 ノモシ
 臍 アキウラ
 乳序 テワ
 ちんちん
 女このうりカニツ

笛 フロク
 大被 ン
 耳 イタル
 目 アイ
 鏡 ロウエンラス
 将き ハイリノ
 多 インキタン
 毛 フキトイシ
 銭 マナイ
 場 イテチヤ
 繩 コフリ

舎形 コキ子
 赤 ランホン
 ちんちん ヒヘウ
 くし コラン
 銃炮 マスケ
 へり レツヒツ
 ひん 手アム
 硯 アイフリ
 傘 アイフライ
 躑 ランス



ニ赤赤セエキ

親方名
 ゲシフ
 キヨホラ
 ノトシ
 テウロウ
 フレルテラ
 キイヒツ
 親方名
 ケシヒサ
 コシメツ
 ケシヒス
 ナフル
 フラタ
 フテラ



人教十二人

煙草と喰ふ事とよくし
淫けとらふはさる根と喰ふ
生けりさとのほ一好く春
テととと喰ふ飯と喰ふじ
喰ふ

鶴と喰ふ事とよくし
飯と喰ふ事とよくし
辞合とよくし
喰ふ事とよくし
大由用としてし

と何の儀か
お入まじい
い
目の色白し
人多きく
限なし
多
え
お



あつこ



HMVO



INCIBIS

インキリス

本舟ハ三拾間
或四十間位也

此傳馬舟
四万余
内外とも
皆ラルシニテヌル

傳る舟細板ヲ何枚トシテ造リ
大船皆銅鉄トシテ造ル由ニ
文政七年申五月廿六日大津濱ニ
或人カ
人カ
人カ





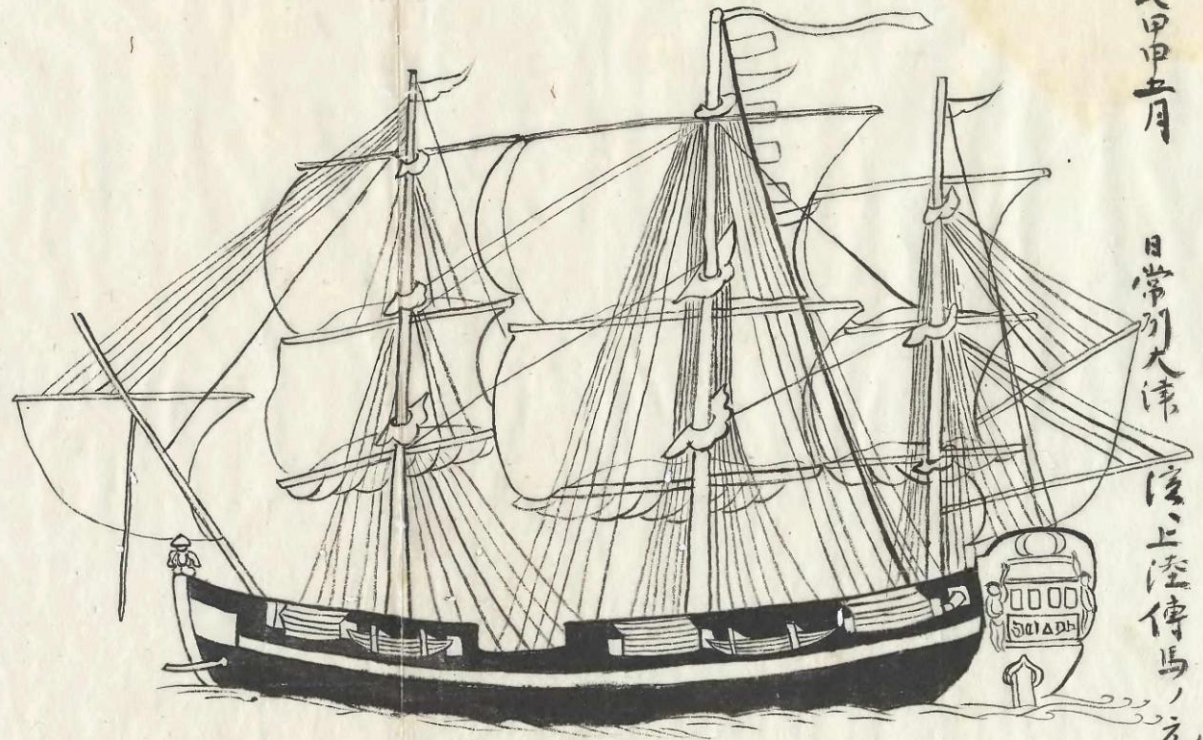
甲申五月於天津
生寫



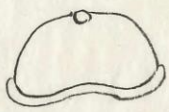
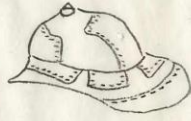
文政七甲申月

日常別大津

後上陸傳馬ノ元船イキリスノ由

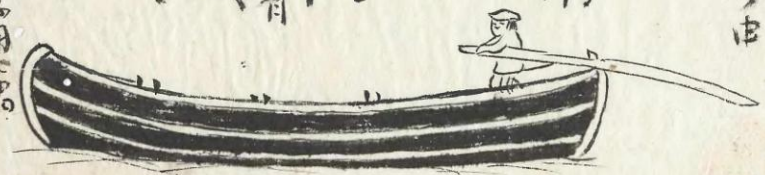


カムリモノ



後船は元ノモリ
年々多金銀物
モ多矣

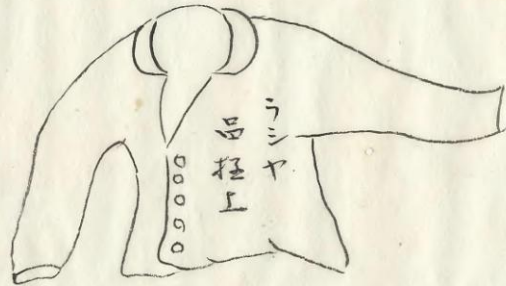
イキリス船
馬舟里キ
シタ
去クヌリ
石イツレモ
シツクイ
ヤトノヤウニ
ヌリ又セイ
ヒツミヌリ有
ハ舟ノ人
ツクニ
ニ艘石使
上陸
且口ノヨリ
因カキ
外明ヒ只女用ヒ申



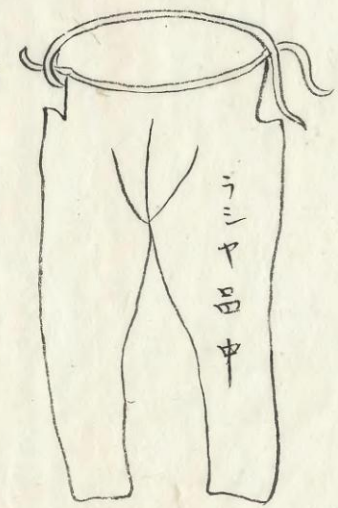
Handwritten signature in cursive Japanese calligraphy.

カヨシニ
書イタシ





中ニハフトヌノ毛トロメニナトモアリ
色々



請厄利西人各

アンケリア

カヒメン

ケヒカン

同

ケニア

ワール

ゲヘン

シメリ

リヤウキセル

フラテン

テヤホタ

ルネン

テヒス

テラウ

メトト

ミニア
南西
墨利加
新請厄利西人
イキリス
イキリス
ハ
マ
シ
テ
エ
ト
唱
マ
シ

あゝあゝあゝあゝあゝ

一さん ニちまふ

三さん ひとあふ

又たい 六せき

七志やん 八あい

九なめん 十てん

三つほふ ますけ

△まゆけ ちほふ

かこのを ちあう

は ちあ

あ ちん

かひち ちあ

ちあ ちん

ちあ ちん

ちあ ちん

目 ち

えん ち

ロ ち

み ち

ち ち

あご ち

ほふ ち

ち ち

ち ち

ち ち

ち ち

ち ち

ち ち

あ い

のう し

ち ち

いせ し

あ ん

糸

ち て

ち ち

ち ち

あ ち

あ ち

い ち

ち ち

文政七申六月十日寫

異國船上陸の事情の調査書 文政七甲申八月五日

異國船中、遠沖、おろく、西文政七月亦、あつた、船大、漢語、
上陸、舟、も、あ、え、敷、し、漢、文、四、五、リ、不、の、船、名、も、あ、め、し、ま、
せ、な、の、事、事、し、一、等、の、帆、も、信、等、も、又、欣、情、に、迷、ひ、を、
漁、父、昔、處、沖、も、由、に、交、易、之、跡、も、異、國、之、品、物、し、世、出、
て、舟、け、を、信、に、し、ま、し、書、け、し、也、

近年、異國船、西北の海、より、南、北、海、より、し、ら、ら、取、り、
事、を、て、沖、の中、又、遠、る、事、及、舟、も、し、ら、ら、或、ハ、洋、中、に、我、志、
く、こ、ま、し、ま、せ、我、志、の、事、を、あ、め、ら、う、し、或、ハ、洋、中、に、我、志、
北、洋、人、も、舟、招、き、物、を、何、し、く、し、は、れ、あ、り、け、ん、と、す、
志、も、し、ま、し、る、事、を、し、ら、し、く、異、國、の、船、も、亦、亦、是、方、

あ、つ、た、と、し、ら、ら、大、て、い、積、文、字、を、用、し、る、事、も、い、ま、し、ら、る、事、
も、し、ら、ら、一、ヤ、に、て、一、等、十、文、字、の、と、り、つ、た、船、と、し、り、
と、ち、邦、字、の、もの、を、い、ま、め、れ、平、日、の、形、氣、を、未、知、し、て、
後、ら、し、く、こ、ま、し、ま、し、ら、し、り、し、ら、し、り、も、由、心、を、信、き、事、を、あ、
く、志、も、し、ま、し、る、事、を、あ、り、け、ん、異、國、の、人、民、も、亦、亦、是、方、
船、も、亦、亦、是、方、一、ヤ、に、て、一、等、十、文、字、の、と、り、つ、た、船、と、し、り、
の、事、も、亦、亦、是、方、

天、正、太、神、の、神、國、も、人、し、日、志、も、亦、亦、是、方、天、正、と、
ら、け、て、亦、亦、是、方、一、ヤ、に、て、一、等、十、文、字、の、と、り、つ、た、船、と、し、り、
夏、も、一、及、ん、事、を、あ、り、け、ん、異、國、の、人、民、も、亦、亦、是、方、
の、事、も、亦、亦、是、方、近、年、て、亦、亦、是、方、の、事、も、亦、亦、是、方、

多居けんや昔南蛮をく告利お母のほゆらち
し其ゆ西洋の事おまのりゆてあゆめお
交りやしきうたんく又取入て後、邪言をり入ふ
と奪人と傳ふこいおの人これ又進ひてちや
又あつたよの前使かると二十八万人又ぬとや
く此はよくそたの人今もあつたよゆめ
改りぬいさく一母ゆ近付たるあさこいよらて
あり

東照宮のこのかこ三作お軍もあつたよら
邪字ぬ信ららして今おぬ絶ちしきり
今よまを天下の大業とあつたよら改めたり

甲申のし改又多國交易の事一は又定めてお
らしたの邪字文字のよ、近付るとはも
つほあつたやうたんよの事おとす山あつた
ゆきハ子人合款口あつたよら一は教とあつた
ハかろしや人の教とあつたよら文字のねゆあ
つたよをいよとあつたよ

天照太神のつまこいゆらけららしき
おまゆ人又近付てまはつたよの事おま
刑罰又あつたよいよとあつたよ
阿部一まゆ又ハ捨圖おのれ邪言のあ
ら一はまゆと後あつたよとあつたよ

とくしふと心付たもしくひましぬあつたあま
かりた移さ居しお又異玉あぬぬいぬか
以才又あつた事ある時、速に玉あぬぬ人
許生もあつた忠告たま居し玉居る志
ましとあつたけ心付たあぬぬ

右件、誠信方の終人を仲のあつた村に下居り
信方左位の躬またましく心付たを教ふの意
あまを居るの意を居るあつたあつた

石異形ゆれよき

今方是船出界之音乎情亦整一舟自
不且亦亦 正當初出地乃教多之向信亦
子之何言是文武二云之遠望之亦
常之千言昔能先河之志年之相練
本之入之入之考難之宿患之打
棄連之進後之務之之由人修之
吉厚之掛之存之存之少場感能し
向後之文之少行要之仍揮光
年之論之可之件之白

文政七年甲申七月

市書判

前件之書音之也。考之千之計事
好事之了難況物之也少少也事信
之書生之凡書之書之文之難中之所
之也哉評之客之也所一白之也



市書判

文政七年（一八二四）夏、異国伝馬船が
大津濱へ上陸した時の記録書

一冊

松籙藏書

